

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本内分泌学会
代表理事 有馬 寛

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
 - a. 特に学術的に重要と考えられるもの
厚生労働省難治性疾患政策研究事業の研究班（間脳下垂体機能障害に関する調査研究班、副腎ホルモン産生異常に関する調査研究班、ホルモン受容機構異常に関する調査研究班、プラダー・ウィリ症候群における診療ガイドラインの作成研究班）における主要な研究者は、日本内分泌学会員であり、日本内分泌学会は上記の研究班と協働して各種ガイドラインを策定・刊行することによって、内分泌疾患の診療の質向上に貢献している。また、上記以外にも日本内分泌学会として独自に臨床重要課題を定め、各種内分泌疾患の病態、診断、治療に関する新たな知見を取りまとめて学会ホームページを通じて公表している。
 - b. 当該領域における国際的な役割
ISE（International Society of Endocrinology：国際内分泌学会）の Board Member には日本内分泌学会の理事が含まれており、これにより日本内分泌学会が ISE の主要な Society の一つとして ISE 運営に関与することが可能となっている。また、ICE（International Congress of Endocrinology：国際内分泌学会学術集会）のプログラム委員会にも日本内分泌学会の理事が毎回参加し、学術集会の企画段階から積極的に関与している。
 - c. 活動からもたらされる社会的な意義
希少疾患であるが故に診断と治療に苦慮する各種内分泌疾患の診療ガイドラインを日本内分泌学会が策定することにより、内分泌疾患の理解推進に努めている。また、ISE を通じて日本内分泌学会の取り組みを世界に発信することで、グローバルにおいても内分泌疾患診療のレベルアップに繋がる取り組みを行っている。
 - d. 学会運営上留意している点
エビデンスに基づき、かつわかりやすい診療ガイドラインを作成することを目的に、日本内分泌学会では各種ガイドラインを刊行する前に必ず学会員にパブリックコメントを求めることにしている。また、日本内分泌学会には若手育成を目的とした各種受賞制度や研究助成制度を設けられている。さらに、学術集会においては教育講演を充実させ、専門医の

育成に注力している。

- II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

日本内分泌学会の分科会としては、日本神経内分泌学会、日本甲状腺学会、日本生殖内分泌学会、日本ステロイドホルモン学会、日本心血管内分泌代謝学会、日本臨床内分泌病理学会があり、学術集会開催時にもこれらの分科会と密に連絡を取り、プログラムの充実に努めている。また、診療ガイドライン作成等に際しても、関連する分科会と十分に協議を行っている。さらに、新専門医制度においては日本糖尿病学会と連携し、新たな専門医制度となる内分泌代謝・糖尿病内科（領域）専門医制度の構築に取り組んでいる。